

平成29年4月15日

世田谷区軟式野球連盟 少年・学童部

## 2017年度の規則改正に関して

(1) 公認野球規則2017の 5.06 (b) (3) (C)および【原注】は、二子玉川緑地グラウンド、砧公園グラウンドでは適用しない。

但し、ボールデッドの個所に倒れこんだ場合は適用する。(従来とおり)

5.06 (b) (3) (C) (34 ページ)

野手が飛球を捕らえた後、《ボールデッドの個所に踏み込んだり、倒れ込んだ場合。》

【原注】 野手が正規の捕球をした後、《ボールデッドの個所に踏み込んだり、倒れ込んだ場合、》ボールデッドとなり、各走者は野手が《ボールデッドの個所に入ったとき》の占有塁から1個の進塁が許される。

理由：

公認野球規則では、野球は囲いのある競技場で行われる競技として規定されているが、二子玉川緑地グラウンド、砧公園グラウンドでは白線でボールデッドの境界を示している。

プレイングフィールドが狭くなっていること、囲いがないことから飛球を正規に捕球した後に余勢でボールデッドラインを越えることがありうる。

本連盟では、5.06 (b) (3) (C)および【原注】を適用せずにプレイを継続させる。

但し、ボールデッドの個所に倒れこんだ場合は適用する。

(2) 競技者必携2017で規定されている 監督またはコーチがマウンドに行く回数カウントについては1~4全てを適用する。(従来とおり)

規則適用上の解釈 (42 ページ)

1 監督またはコーチがファウルラインを越えて投手のもと (マウンド) へ行った場合は必ず1回に数える。(ただし投手交代の場合を除く)

2 イニングの途中で監督またはコーチが投手のもとへ行き投手交代をする場合：新しい投手がマウンドに到着し、その投手がウォームアップ (準備投球) を始めたならば、その監督またはコーチはベンチに戻らねばならない。  
もし、そのままとどまっていた場合には1回と数える

3 新しいイニングの初めに、監督またはコーチがマウンドに行った場合：1回に数える。

4 球審 (審判員) は、監督またはコーチに投手のもと (マウンド) へ行った回数を知らせる。

理由：

試合時間が1時間30分と制限されており、出来るだけ競技時間を取りたい。

以上